

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

第三者意見



サステナビリティ日本フォーラム
代表理事
後藤 敏彦氏

「人々の生活を豊かに」という日産の企業ビジョンは素晴らしい理念ですが、先行き人口90億人時代を見据えると、資源制約の問題などが必ず立ちふさがると思われます。そのためには「循環型システムの構築」と、物質だけではない「心の豊かさ」に貢献するサービス提供が事業存続にとって必須になると考えます。CEOメッセージでも強調されていますので安心してはいますが、今後の課題について中長期にわたりさらなる強化を期待したい。

アライアンスの取り組みが実を結びつつあるのは、今後の技術開発に巨額の資金を要することを考えると、ビジョン・ミッションの実現可能性を増すものと評価できます。スコアカードと「ニッサン・グリーンプログラム 2016」進捗一覧も、目標設定がきちんとなされ進捗が可視化されているという点で評価されます。

環境への取り組みは、グループ全体としては素晴らしいの一語に尽きません。ただ、環境パートでも、サプライチェーンと販売店の環境への取り組みはトピックスや調達基準だけではなく、全体としての方針や目的など、もう少し詳細情報があると良いと思います。

安全への取り組みを、1万台当たり死亡・重傷者数で可視化して示されているのは業界では自明のことでも分かりやすく評価できます。さまざまな安全技術の開発も素晴らしいですが、ガラパゴス化しないか、高齢化社会で使いこなせるのか、少し懸念があります。世界中が日本に続いて高齢化しますので、オートマチック化は競争力の強化につながると思います。

また、実施されているのですが、安全技術の使い勝手の説明は「セールス・サービス品質」の向上の重要項目のひとつのように思います。

バリューチェーン課題は今、最もホットな課題です。国際NGOは社会正義の実現に向け、バリューチェーンの頂点に位置する企業に、追及のターゲットを絞ってきております。1次だけでなく、2次、3次どころか、資源の掘削・採取に至るすべてのサプライヤーでの行動を頂点企業にぶつけてきています。ISO26000の世界は極論すると、バリューチェーンと、人権・倫理の取り組み強化です。こうしたことからステークホルダー・エンゲージメント(SE)とサプライチェーンに対するデュー・ディリジェンス(DD)プロセスが極めて重要になってきています。

単に調達基準を説明し配布しただけではDDを果たしているとは見なされませんし、リスク・マネジメントとしても不十分です。前年より進展していることは読み取れますが、世界の動きは速いので、サプライヤーに濃淡をつけて、もう少し加速される必要があるように感じました。

報告書では「人権」という言葉が少ないことと、社会貢献を除きSEが必ずしもよく見えません。SEは8つの「サステナビリティ戦略」のすべてにかかわりますので、表現を工夫され、各パートで少しでも記述されることをお勧めします。ここで強調したいのは、これらの取り組みを「守りのCSR」としてではなく、ビジネス・オポチュニティにつなげる「攻めのCSR」として実行されることを期待したいことです。

ダイバーシティについては先進企業として数々の表彰を受けられ、高く評価されます。時間がかかることを戦略的に進められており、高く評価するとともに、常にフロントランナーであり続けられることを期待します。

報告書に関して、最初の方で記述された「使い方」、「カテゴリータブ」は分かりやすく大変良いです。

最後に、日産自動車のホームページでのCSRは4層目にありますが、日産のグローバルサイトのように1層目での頭出しまではいなくても、もう1段上の方にされるべきと考えます。